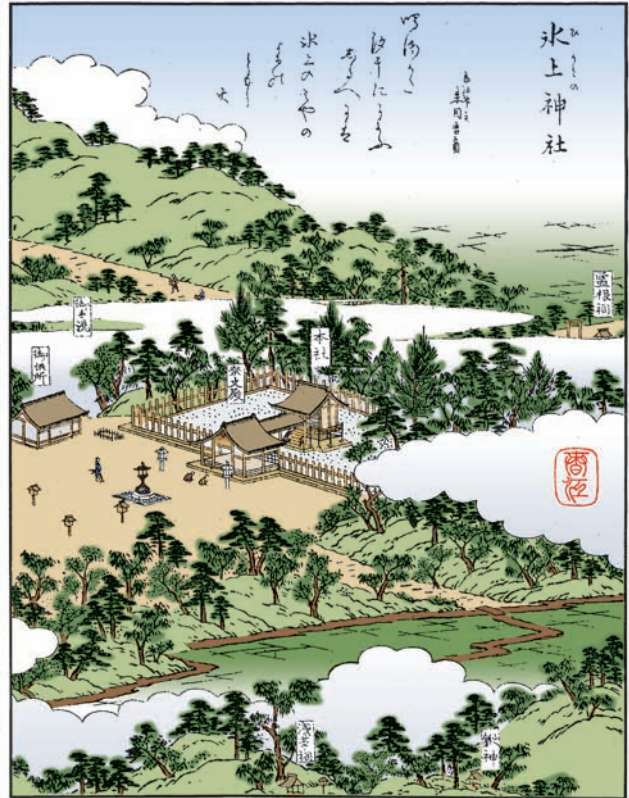
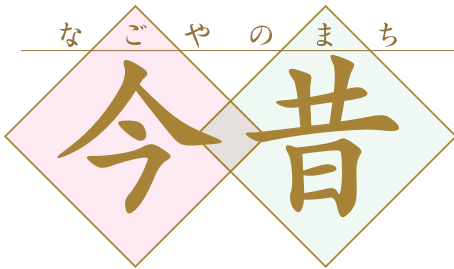


古代神話とロマンの地



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれている江戸時代の氷上姉子神社です。

熱田神宮の摂社で宮簀媛命を祀り195年に社殿が設けられています。

その後、本殿は、現在地に遷されましたが、旧社地は本宮として祀られています。

氷上姉子神社は、昔から「お氷上さん」と呼ばれ尾張氏の祖神として、大高町はもとより、広く当地方一円の人々から崇敬を集めています。

古代この地は、火高郡、火高と呼ばれていましたが、当社および火高の民家が度々火災にあったので、火の字を忌んで火上が氷上に、火高が大高に改められたといわれており、記録によれば鎌倉時代には、すでに氷上姉御天神と改められています。

日本武尊が、東征の途中に氷上の里の乎止與命の館に逗留し、東国平定後の帰途この地に留まれ時に宮簀媛命を妃にされたとあります。その後、日本武尊は、出征に当たり神剣(草薙の剣)を宮簀媛命に託されました。

日本武尊の崩御の後、神剣をこの地で守護していましたが、後に熱田神宮へ移され祀られています。

尾張名所図会には、神社用地は、広大で古木で覆われ日陰も漏らさず、苔で覆われた境内と記されています。現在も神社境内は、鬱蒼とした樹林におおわれ往時の様子がしのべられます。



現在の氷上姉子神社



氷上姉子神社の鳥居 道路を挟んで西側には本宮の鳥居がある

- ◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です
- 「尾張名所図会前編六」岡田啓/編 愛知県郷土資料刊行会(Sc-A)
 - 「再発見名古屋」名古屋社会科教育研究会/編 名古屋社会科教育研究会(Se-ナ)
 - 「名古屋いまむかし」編集考房とその仲間たち/編 編集考房(Se-へ)
 - 「新修名古屋市史第1巻」新修名古屋市史編纂委員会/編 名古屋市(Sc-フ)
 - 「大高町史」大高町誌編纂委員会/編 大高町(2B21-65)
 - 「緑区の歴史」榊原邦彦/編 愛知県郷土資料刊行会(Sc-A)
 - 「緑区史」緑区区政20周年記念誌編纂委員会 名古屋市緑区役所緑区区政20周年記念誌編纂委員会(2B21-83)